

2018年4月3日

「草の根・人間の安全保障無償資金協力」

「エンブ・グアス市サンタ・クララ初等教育学校改修計画」  
に係る草の根・人間の安全保障無償資金協力の贈与契約署名式について

在サンパウロ日本国総領事館

去る3月23日（金）当館において「クルツラ・フランシスカナ協会」（以下、エンブ・グアス市サンタ・クララ初等教育学校改修計画）」に対する我が国草の根・人間の安全保障無償資金協力の贈与契約署名式をナイル・デビナ・ロセット理事長と当館野口泰総領事の間で行いました。

●出席者の挨拶：

野口泰総領事

「草の根・人間の安全保障無償資金協力は開発途上国の多様な援助ニーズに応えるための制度であり、それらの国の地方自治体、教育・医療機関及び NGO 等、現地において比較的小規模なプロジェクトに対する資金協力である。サンタ・クララ初等教育学校は、約340名の貧しい児童に対して学童保育等の教育的サポートの多くを無償で提供されておられると聞いています。また同校はコミュニティーへの啓発活動等、公教育が十分に行き渡っていない地域で素晴らしい活躍をされていることに敬意を表します。この支援による施設改修によって、現在通っている児童の安全面、衛生面での貢献だけでなく、障がい者配慮の観点から同校を利用する低所得者層の住民の教育環境の向上に寄与できることを大変嬉しく思います。」と祝辞を述べました。

ナイル・デビナ・ロセット理事長

「私達は、日本国政府に協力をしていただいたことに敬意を表するとともに、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。現在の施設は建築から34年が経ち、バリアフリーの概念が薄い時代に設計されたため、補修の必要性がありました。時宜を得た資金協力によってこれまで受入れることが出来なかった車椅子利用者の入学の道を開くことが期待されます。これからも同校を利用する低所得者層の住民教育環境の向上に貢献していきます。」と謝辞を述べました。

●案件概要：

サンタ・クララ初等教育学校は6カ所の教育機関及び2カ所の学童保育施設を運営するクルツラ・フランシスカナ協会が1984年に設立した低所得者層家庭の初等教育を主眼に運営している学校で、現在は約340名の貧困者層地域に居住する児童の教育を行っています。学費を徴収しておらず、運営母体であるクルツラ・フランシスカナ協会からの経費で賄われている同校は、設立以来の施設をそのまま使用してきたため、床のタイルの摩耗など児童の安全衛生、障がい者配慮の観点から改修等を行う必要が出てきました。今回の協力は、施設の改修に53,532ドルを限度に無償

資金協力を行うもので、車椅子児童を安全に受け入れる事を可能とし、また施設を利用している児童全ての安全衛生を向上させるものです。

(問合せ先) 在サンパウロ日本国総領事館経済班  
(0 x x 1 1) 3 2 5 4 - 0 1 0 0



総領事、理事長、教育マネージャー、プロジェクト・アシスタント